



## 会議録（２）

### 議事の概要（経過）・決定事項

- 1 会議冒頭に市長が出席し、入間市児童福祉審議会に対して「入間市こども計画の策定について」諮問を行った（答申期限：令和7年1月末）。諮問を受け、審議会では今後複数回の審議を経て、期限までに答申を行う。
- 2 下記の議題について事務局が説明し、審議を行った。  
委員からの質疑については、事務局が回答した。

#### 議題

- (1) 入間市こども計画について

会 議 録 ( 3 )

発 言 者	発 言 内 容
池田会長	<p>(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する。)</p> <p>本日の議題に入る。今回の会議録署名人は千葉委員にお願いする。</p> <p>(1) 入間市こども計画について</p>
池田会長	<p>「入間市こども計画について」を議題とする。事務局から説明願う。</p>
こども支援課主幹	<p>まずは「入間市こども計画について」、資料に沿って説明する。 (資料2-1-1～資料2-1-3に基づいて説明)</p>
池田会長	<p>自治体こども計画を策定するにあたり、こども政策担当部署だけでなく、医療、保健、福祉、教育等の関係部署と幅広く意見交換を行って計画の策定を進めることや関係機関やNPO等の民間団体との有機的な連携を行い、多様な意見の聴取に努めることが重要である。よって入間市こども計画(以下「次期計画」という。)は、こども支援部のみならず児童福祉審議会(以下「審議会」という。)をはじめとして関係機関と共に策定していく必要がある。次期計画を策定していくにあたり、疑問や意見等はあるか。</p>
千葉副会長	<p>審議していくうえで、次期計画と入間市子ども・若者未来応援プラン(以下「現計画」という。)との関係性が分かりづらいため、もう少し簡単にご説明いただきたい。</p>
こども支援部次長	<p>資料2-1-2に自治体こども計画と一体とできる計画が載っている。本市では先取りする形で現計画にこれらのこども施策に関する事項を定める計画が既に位置づけられている。そのため、現計画を踏襲することを基本に、子ども・子育て支援法等の関係法令の改正等に対応できるように、一部追加したり、ブラッシュアップしたりすることで、次期計画を策定できると考えている。</p>
千葉副会長	<p>ライフステージを通じた支援が重要になっていくかと思うが、課題に対して部署間を横断して対応できるような工夫していくことや変更していくことはあるか。</p>
こども支援部次長	<p>子ども・若者未来応援プラン策定委員会という内部組織があり、現計画に包含されている各種計画に関係する部署の実務者と共に次期計画について審議を行っている。また、計画策定にあたっては、こどもや子育て当事者等を対象にアンケート調査を行っている。この他、こどもを対象にしたワークショップも検討しており、様々な手法で意見聴取を行っていく予定である。</p>

発 言 者	発 言 内 容
千葉副会長	しっかりと部署を横断して機能するよう運用していただきたい。
池田会長	昨年度に行なわれた、子育て支援の望ましいあり方を検討する「子育て支援を考える有識者会議」でも福祉と教育の連携の必要性について話があった。こどもまんなか社会の実現に向けて、福祉と教育の連携をはじめとして、横断的な連携に取り組んでいく必要がある。
佐藤委員	先日、三井アウトレットパーク入間で「こども夢の商店街」というこども向けの職業体験のイベントがあった。今後、こども支援の一環として、このようなイベントは予定されているか。
こども支援課主幹	令和4年度に横浜市で行われた「ミニヨコハマシティ」を視察した。仮想の「ミニヨコハマシティ」における市長選挙や警察、銀行等の運営がこどもにより行なわれていた。このような事例を参考にしながら、こどもの社会参画について研究しているところである。
土橋委員	現計画と次期計画との関係性について、特に「子ども・若者未来応援プラン」という名称が残るのかについて教えていただきたい。
こども支援課主幹	基本的には現計画の内容をベースに次期計画である「自治体こども計画」を策定していく。名称として「子ども・若者未来応援プラン」を残していくかについては、今後検討していく予定である。
土橋委員	関係機関からの意見聴取についても具体的にどのように実施するのか教えていただきたい。
こども支援部次長	関係機関からの意見聴取についてはパブリックコメント等を活用して補完する予定である。今後、他に実施する必要があるか検討していきたい。
池田会長	次期計画については、現計画に含まれている各種計画を引き続き包含して「自治体こども計画」を策定するが、その名称を引き続き「子ども・若者未来応援プラン」とするか未定であるということか。
事務局	そのとおりである。
岩崎委員	不登校のこどもが健康診断を受ける機会がないというニュースを目にした。次期計画では不登校のこどもに対する支援や、学校に居場所のないこどもたちの居場所づくりを拡充していけたら良い。
吉川委員	第6次入間市総合計画前期基本計画は何年度までか。また、次期計画を第6次入間市総合計画後期基本計画に盛り込まれるということか。

発 言 者	発 言 内 容
こども支援部次長	第6次入間市総合計画前期基本計画は令和3年度までで、後期基本計画は令和4年度から令和8年度までである。次期計画は令和9年度から始まる第7次入間市総合計画の個別計画として位置づけられる。
池田会長	第7次入間市総合計画を策定する会議体は発足しているのか。
こども支援部次長	現在は企画課内で検討している段階である。
池田会長	総合計画は総合的かつ計画的な行政の運営を目的とするものであるため、子育て支援については手厚くしていただきたい。
生田委員	市役所内にも子育てをしながら働いている職員が多いと思う。庁内であれば意見も聴きやすく、仕事と子育てを両立している方から意見を聴くことで、次期計画も身近なものになっていくのではないかな。
苔縄委員	本市が国に先行して一体的な計画を策定していることは素晴らしいと思った。 佐藤委員から話があったこども向けのイベントに関連して、コロナ禍前ではあるが、入間市工業会でも市内の企業の紹介や工場見学等のイベントを行った。このような形でもこどもと一緒に活動が共有できればよいと感じている。
手塚委員	次期計画が現計画と大きく変わることなく進めていくことが理解できた。 福祉と教育の連携は重要であるため、審議会の中でも学校や幼稚園といった関係者と意見交換をする機会があると良い。 国の動向としてこども誰でも通園制度の創設がある。保育関係者でもどのように運営するのかはっきり理解できていない中で、市民はより理解することが難しいと思う。新しい事業についても児童福祉審議会の中でも勉強していきながら、市民にもわかりやすく伝えたいうえで、次期計画に含めていくことが重要ではないかな。
池田会長	次期計画の名称について、こども家庭庁では年齢で途切れることなく支援するために「こども」と表記しているが、「子ども・若者未来応援プラン」のままでは国の方向性と異なってしまう。審議会内でも意見をもらったり、名称を募集したりしてもよいかなと思う。現計画の際には、いかに市民に知ってもらえるか、こどもに読んでもらえるかという視点で工夫した。「応援」という言葉は大人からの視点であるが、こどもからの視点で考えながら様々な世代から親しまれる名称を考えることも審議会の重要な役割だと思う。そのために、こども支援部のみならず、こどもも含めた関係者の意見を大切にしたいコンセプトを作り上げていきたい。

発 言 者	発 言 内 容
千葉副会長	<p>他に意見がないようなので、議題（１）「入間市子ども計画について」は以上とする。</p> <p>以上で閉会とする。</p>

議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 6 年 6 月 21 日

議 長 の 署 名

池 田 拓

議長が指名した者の署名

千葉 弘明